

# 明 — みょう —

真宗大谷派 本明寺通信

## No. 3

2007年1月23日発行

以和為貴



聖徳太子画像下絵

前任職 釋賢勝画

# 新年挨拶



## ◆無量壽

新しい年を迎えお慶びも新たな事と存じます。本明寺改築計画により昨年より皆様方よりのご寄進、ご心配を賜り有難うございます。時勢により予算上いろいろの問題もありましたが、一月十日頃より工事を開始する運びとなりました。

五十年程開法の道場としての役割を果たしてきた本堂や本明寺の目印にも成っていた桜の木を解体、伐採せざるを得ないことは、些かの残念な感じがしますが、これからの時代に相応した施設とするために時節到来とご理解をして下さい。

正月は一年の出発点として誰しも心を一新され、すがすがしい思いをもって新しい年に望まんと気持ちを整える時です。仏教においては修正会として仏法の曲がれりを直し正しい教えに修正する機会であり

ます。真宗門徒としては念仏相続の生活が成り立っているか確認をする大切な時期です。それはすなわち自らの食欲、陰悪、愚痴の三毒にまみれた生活や生き方を問い直す大切な時期であり、自分一人の事ばかりでなく社会における貧困、戦争、殺人いじめ、虐待など無関心ではいられない事柄が私への問いかけでも有ります。

しかしながら、三日坊主の言葉に代表されるように、悲しいかな我々は何日も立たないうちに新年の気構えも薄らいでしまうことは多くの方が経験されていることと思えます。

ですから毎日、修正が必要なのかも知れません。共々に心して生活をしたらいものと思えます。  
(住職 釋 隆見)

## ◆大切な「今」

いつだったか、テレビのアニメで一休さんを見ました。一休さんはお正月に竹竿にドクロ(人間の頭蓋骨)を付けた物を持ち、町に出かけこのような歌を歌ったそうです。

門松は 冥土の旅の 一里塚

めでたくもあり めでたくもなし

世間の中ではお正月を迎えると「明けましておめでとうございます」と喜びます。しかし、一休さんは、お正月が来れば誰でも一つ年をとる。年をとるという事はそれだけ死に近づいている。どんな人でも必ず死に、この竹竿に付けたドクロによる。あと何回お正月を迎えられるかわからない。だから、お正月がきたと言つて、めでたがつてもいられない。ということをお話です。

一休さんの話では「あと何回お正月を迎えられるかわからない。」つまり、あと何年生きられるかわからない。もつと掘り下がって考えると、あと何ヶ月、あと何週間、あと何日、あと何時間、あと何分、あと何秒、生きることができのかわからない。

今年一年が、「今」と言う時を大切に積み重ねていきたいと思えます。

(副住職 釋 彰一)

# 本明寺 行事報告

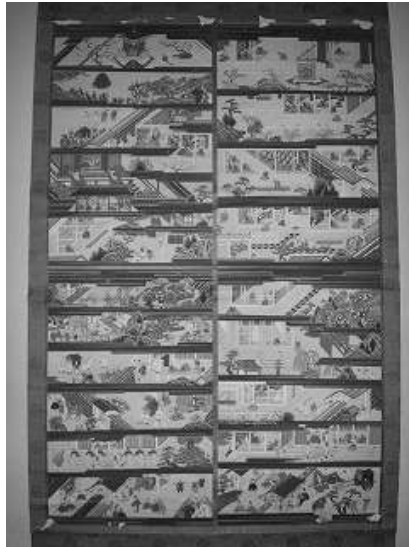
## ◆報恩講法要 (十月二十九日)

本明寺改築前の本堂で行われる最後の報恩講が執り行われました。

今回の本明寺の報恩講では、改築にあたり本堂を整理しているときに出てきた『御絵伝』を紹介しました。(住職もあることを忘れていたらしいです…苦笑)

この『御絵伝』は、もともと覚如上人が著された『本願寺聖人伝絵』という書物から作られました。『本願寺聖人伝絵』とは、親鸞聖人の生涯を「詞書(ことばがき)」と「絵図」とを交互に連ね説明した巻物です。この『本願寺聖人伝絵』の「詞書」の部分だけをまとめたものを『御伝鈔』として、「絵図」は『御絵伝』として四幅の掛軸にまとめられました。

この『本願寺聖人伝絵』は、ただ単に「歴史上の人物としての親鸞聖人の生涯」を説明したものではなく、「求道者(仏教の道を求めた人)としての親鸞聖人の生涯」を説明したものだと思っています。つまり、親鸞聖人の歩まれた念仏者としての生涯を通して、今を生きる私たちが念仏者としての、歩みの一つの道しるべとしていただくものだと思います。



→ 本明寺の『御絵伝』です

ちなみに、本明寺にあった『御絵伝』は四幅の掛軸が一幅にまとまったものでした。



お話の様子です。昔はこのようにして親鸞聖人の生涯に触れられたそうです。



↓  
懇親会の様子  
です。



↓  
改築前の本堂で  
写真を撮りました





◆おみがき奉仕(十月二十日)

参加者

川瀬 きぬゑ 滝口 泉

今回二回目でした。ご参加いただきありがとうございます。今後のおみがきの予定は未定です。お手紙とホームページにてご案内させていただきます。開催の際はぜひご参加ください。

◆報恩講お手伝い(十月二十八日、二十九日)

お斎作り

川瀬 きぬゑ	高田 トヨ
高野 節子	宝田 康子
滝口 泉	田中 良子
根岸 千恵子	根本 初子
平井 二三	横山 ナヲ

受付

郡司 三郎	宝田 満男
滝口 和彦	沼田 博幸
横澤 正克	

お手伝いありがとうございました。今後ともご協力お願いします。また、今後ご協力いただける方も募集しております。お寺までご連絡ください。

## 副住職の大まかな活動

◆東京一組門徒会報恩講

(十月二十一日)

講題 「いのちのバトンタッチ」  
講師 青木新門 師

### ●青木新門先生について

青木先生は作家志望だった。しかし作家だけでは生活がでせずに冠婚葬祭会社に入社した。そこで納棺夫（遺体をお棺納める仕事）になった。もともと納棺の作業は家族や親族のやる事だったが、一度納棺作業を手伝ったことをきっかけに評判が広がり納棺夫としての仕事が続くことになる。青木先生は、社会から差別的目で見られること、亡くなった方の遺族から感謝され

ることに葛藤しながら仕事を続けていくことになる。

青木先生は入社してから日々日記を付け始め、その日記が後に『納棺夫日記（文春文庫）』として出版された。ちなみに「納棺夫」という言葉は青木先生の造語である。



### ●「いのちのバトンタッチ」について

いま、「いのちのバトンタッチ」がなくなっている。人が死を迎える場所は、大半は病院などである。また家族が納棺の作業をすることは少ない。今の社会は死の現場がなく、死を隠ぺいしている。「生」の状態から「死」の状態になる一瞬に、「亡くなる人」から「残された人」へのメッセージがある。それが「いのちのバトンタッチ」である。

### ●公演のお話で心に留まった言葉

- ・ 人間は、自分を丸ごと認められた時に生きていける。
- ・ 納棺夫という仕事を、社会的評価を気にしていた。しかし、死者の顔が清らかに見えたときに社会的評価ではなく自信をもてた。
- ・ 死に様が生き様である

◆本山報恩講出仕

(十一月二十四日)

東京一組の「よにん会(若手の会)」で本山の報恩講に出仕することを目標に九月から四カ月にわたり声明(お経)の練習をしていました。



十一月はいよいよ実際に本山の報恩講に出仕してきました。僕にとって初めての経験だったので少し緊張しましたが、大勢でお勤めをする迫力と、お勤めに雅楽が入ったりと、とてもきれいでした。  
夜は、副住職が学生時代にアルバイトをしていたお店で反省会&懇親会をしました。

出仕したメンバーです。  
お疲れさまでした。

御修復中の東本願寺の御影堂です。



平成二十三年(二〇一一年)は「宗祖親鸞聖人七五〇回御遠忌」です。京都に行かれた際には真宗本願(東本願寺)に足を運ばれてはいかがでしょうか。

—

—

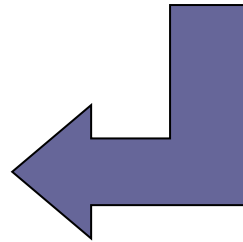
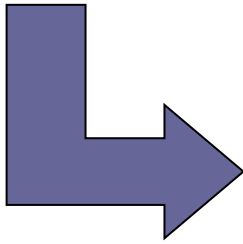


# 本明寺改築報告

平成十八年十一月八日

本明寺 桜伐採

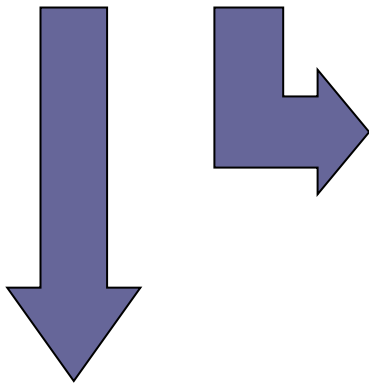
本明寺のシンボル・皆様に愛された桜の木が伐採されました。住職が大学生の時に苗木を植えたので、樹齢は約五十年でしょうか。



根本から二mくらいの所の切り株です。直径約七十cmでしょうか。ちなみにタバコと比較してみました。この桜の木を加工して何か作る予定です。お楽しみに！



平成十八年十二月一日  
本堂の内陣解体  
内陣内の仏具を解体しまし  
た。  
二日間の作業により、本尊(阿  
弥陀如来像)は仮住まいへ、そ  
の他の仏具は修理、保管をお願  
いしています。



↑  
仏具を移動後の内陣です。  
←  
本尊も仮住まいです。

お世話になる業者さんです。  
設計 有限会社タカラ設計  
施工 松井建設株式会社  
仏具 株式会社小堀  
以上です。  
よろしくお願ひします。

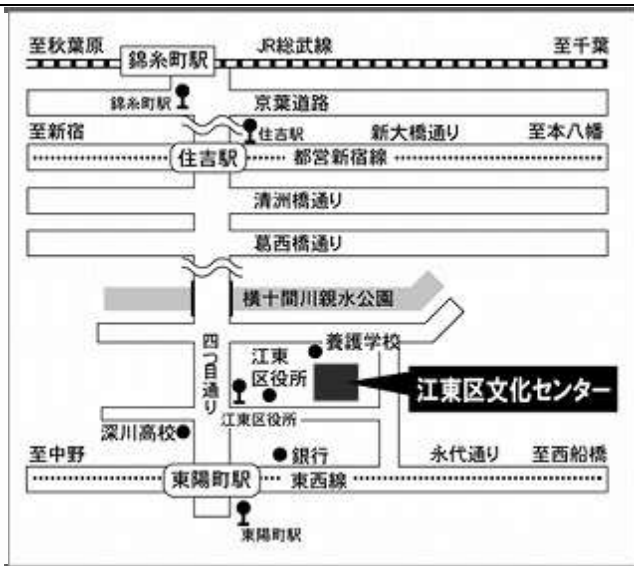
# 東京教区の予定

## ◆湾岸親鸞講座（全六回）

湾岸親鸞講座は、現代人の抱えるさまざまな問題について、親鸞聖人の教えに一つひとつ尋ねていく市民公開講座です。

- テーマ 『歎異抄』の世界に学ぶ
- 講師 木越 康 先生
- 時間 午後二時～四時
- 参加費 一回 1,000円
- 会場 江東区文化センター  
〒135-0016

東京都江東区東陽四・十一・三  
TEL 03-3644-8111  
FAX 03-3646-8369



- 日程、講義毎のテーマ
- ①一月十三日（土） 親鸞の仏道
- ②二月十日（土） 慈悲のこころ  
— 慈しみ、悲しむということ —
- ③三月十日（土） 念仏のこころ  
— 念仏とは何か —
- ④四月七日（土） さわりなき道を歩む  
— 真宗と祈り —
- ⑤五月十二日（土） 宿業の身
- ⑥六月十六日（土） — 「わたし」とは何であるか —  
まことのこころ  
— 愚者という覚醒 —
- ご不明な点がありましたらお寺までご連絡下さい。
- 副住職もスタッフとして参加しています。

## ホームページ開設のお知らせ



本明寺ホームページ活動中です。

本明寺改築がわかりやすいように、改築中の写真などを載せていきたい  
と思います。

<http://www1.ttcn.ne.jp/~honmyouji/>

# お知らせ

◆平成十九年（二〇〇七年）は左記の年に命終された方の年忌にあたっていきますので、お知らせいたします。

平成 19 年 (2007 年)		
回忌	命終された年	
1 周忌	平成 18 年	(2006 年)
3 回忌	平成 17 年	(2005 年)
7 回忌	平成 13 年	(2001 年)
1 3 回忌	平成 7 年	(1995 年)
1 7 回忌	平成 3 年	(1991 年)
2 3 回忌	昭和 60 年	(1985 年)
(2 5 回忌)	昭和 58 年	(1983 年)
2 7 回忌	昭和 56 年	(1981 年)
3 3 回忌	昭和 50 年	(1975 年)
5 0 回忌	昭和 33 年	(1958 年)
7 0 回忌	昭和 13 年	(1938 年)
1 0 0 回忌	明治 41 年	(1908 年)



◆改築中の仮住まいについて  
仮住まいの住所  
〒130-0022

東京都墨田区江東橋一・八・十一

宝田方

郵便は転送されるようにします。また、電話・ファックスも今までの番号から転送されるようになります。

## あとがき

第二号のページ数が多くなったのを反省に、少し早めに第三号を発行することになりました。

今回は改築のことをわかりやすく知ってもらうために写真を多く載せました。文章と写真の割合や、写真の説明などをもう少し詳しくした方がいいかなあ…と、完成後に思いました。これから皆様に伝わりやすい寺報を提供できるように努力していきたいと思えます。

発行 真宗大谷派 本明寺  
副住職 本田 彰一（釋 彰一）  
〒130-0012

東京都墨田区太平二・七・一

TEL 03-3623-1536

FAX 03-3623-1538

E-mail honmyouji@mx1.tten.ne.jp  
URL

http://www.1.tten.ne.jp/~honmyouji/